

在宅における高齢者虐待の未然防止と家族支援に向けたスキルアップ研修
標準的カリキュラム

【目指すべき人物像・研修ビジョン】			
在宅で認知症の人の介護に携わるすべての家族の介護負担を軽減させ、その人やその家族にあった必要なサービスの情報提供等を行なうことができる。具体的な能力は以下のとおりである。			
1. 認知症について理解し家族の認知症介護に関する悩みや質問、不安に対して適切に応えることができる 介護家族の心理的な理解ができる 本人の心理的理解ができる 認知症について説明することができる			
2. 介護負担が高いにもかかわらず表出できずに溜め込んでいる家族や、不安、孤独感を感じている家族から思いを引き出すことができる 送迎、訪問時等の短時間で家族から思いを聞き出すことができる 利用者・家族の変化を察知し適切な声かけができる コーチングの技法を用いて家族の在宅介護の支援ができる			
3. 家族を地域全体で支援し、社会資源に結びつけることができる 家族を社会で支える視点を持つことができる チームで対応し必要な機関、専門職との連携ができる			
科目名	ねらい	内容・演習・映像教材	時間
1. 認知症の理解	認知症の基本的な医学、心理的理解をし、簡易な説明で家族に解説することができる	1) 認知症介護の歴史と背景 2) 認知症ケアの理念 3) 認知症の人の心理 4) 原因疾患とBPSDの理解 5) 行動の理解と対応 <u>(映像教材1) 認知症の人の心理～本人の声から～</u> <u>(演習) 認知症の人の心理からケア理念を考える</u>	80
2. 在宅介護の実態と介護家族の理解	在宅で介護をする家族の介護負担の実態を理解し、介護負担感の原因やそれが及ぼす高齢者と介護者の心身の変化を講義・演習によって理解する	1) 在宅介護の実態 2) 介護家族のストレスと負担感 3) 家族の想いと家族支援 4) 家族の思いを知るために <u>(映像教材2) 家族の介護負担の理解と望む支援</u> <u>(演習) 家族への説明方法を考える</u> <u>(映像教材3) 家族の思いを理解する</u>	80
3. 家族支援と具体的対応方法	家族は高齢者ケアチームの一員であることを意識し、家族の役割や機能を高めながら、施設と家族の関係性を構築するためのコミュニケーション技法やコーチング理論を用いて認知症ケアに関係する諸課題の解決を演習によって体験的に学ぶ。 孤立する介護者の疲弊した心理状態を理解し、虐待の疑いのある事例への効果的な介入方法を講義・演習によって理解する。	1) デイサービスの機能とデイサービススタッフの役割 2) 家族とのノンバーバルコミュニケーション、60 コミュニケーション 3) 家族支援と社会資源 <u>(映像教材4) デイサービスの送迎</u> <u>(演習) 映像からの気づき</u> <u>(演習) 60 間のコミュニケーション</u> <u>(映像教材5) 再現ドラマ</u>	160
4. 家族支援と社会資源	社会資源を活用して、チームで対応することを理解する。 また、困難事例への対応については事例演習を行う。	1) 家族支援と社会資源の活用 2) 経済的な問題への対応 <u>(演習) 家族支援と社会資源</u>	40
合計 360分 (6時間00分)			360